

# 第1学年1組 音楽科授業案

授業者 忠内 清恵

場所 1の1教室

## 1 題材名 りずむであそぼう

## 2 題材の目標

- ・ 範唱を聴いて歌ったり、●● | ●○のリズムや拍の流れを感じ取って歌ったりする学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・ 言葉のもつリズムを聴き取り、同じリズムの反復や異なるリズムの組合せによる違いを感じ取りながら、二つのリズムの表現を工夫している。 (表現の創意工夫)
- ・ 拍の流れを感じ取って、歌ったりカスタネットを演奏したりしている。 (技能・表現)
- ・ リズムや拍の流れを聴き取り、面白さを感じながら楽曲を楽しんで聞いている。 (鑑賞の能力)

## 3 題材設定の理由

子どもたちは、入学以前から、体を動かしながら歌ったり簡単なリズム楽器を使って演奏したりする活動を経験している。朝の歌や給食時などどんな楽曲でも音楽がかかると自然に歌いだし身体を動かして表現しようとする子がとても多い。歌うことも身体表現することも大好きな子どもたちである。また、音楽の時間では、リズムを基に、ぞうさんになりきって体の動きを工夫しながら楽しそうに表現できる子が多くみられた。また一方では、恥ずかしがっている子、飛び跳ねてしまう子、動きのリズムがだんだん速くなってしまっている子がいて、速さや旋律の感じ、強弱などに気を付けようとしていない様子もみられる。

本題材では、音楽に合わせていろいろな遊びを身体全体で楽しむことで、自然にリズムに対する感覚を身に付けさせたい。そして、音楽をよく聴いて、音楽を形づくっているリズムの要素に気づくことができるようにしていくと同時に、拍の流れに合わせて演奏したり歌ったりする楽しさを味わわせたい。

簡単な手拍子や打楽器を用いたリズム打ちはできるようになってきている。また、まねっこ遊びやなりきり遊びなどの身体表現も楽しんでできている。これらの良さを生かして指導をしていきたい。

まず、楽曲を何回も聴いたり歌ったりして、曲の持つリズムや雰囲気をしつかりと捉えさせたい。そうすることで、子どもたちは曲から感じたイメージやリズムをもとに、自然に感じたことから表現を生み出すだろう。子どもたちが考え出した遊びや身体表現を大切に、それを大いに賞賛したりみんなでやってみたりすることで、楽しみながら活動させたい。次に、既習のリズム遊びから展開して、身体表現していくうちに「たん」と「うん」の違いについて捉えさせたい。「たんたんたんたん」のときの動きと「たんうんたんうん」のときの動きを考えたとき、前者と後者では違う動きを表現する子が多いと思われる。互いの表現を見合わせたり、みんなでいろいろな身体表現をする場を多くもつことで、リズムに合わせて表現することの心地よさを感じさせたい。友達とのコミュニケーションをとり、楽しみながら生き生きと活動できるように展開していきたい。

#### 4 指導計画（12時間完了）

##### 「●●●○」のリズムをうちましよう ①②

- 拍の流れを感じとって●の部分で体の動きを付けて歌う。
  - ・ おもしろいね。
  - ・ ロボットみたいに止まっちゃうね。
- カスタネットを使ってリズム演奏をする。
  - ・ まちがえちゃった。
  - ・ ○で音が鳴ったよ。

##### 「●●●●●●●○」のリズムをうちましよう ③④

- 拍の流れを感じとって、明るい声で歌う。
  - ・ 前のリズムとよく似ているけどちょっと違うね。
  - ・ 連続がたくさんあるから数えないと間違っちゃうね。
- 「●●●●●●●○」のリズムを演奏する。
  - ・ 7個続けてたたくだよ。
  - ・ ちゃんと数えていると歌を忘れちゃう。

##### 「●○●○●●●○」のリズムをうちましよう ⑤⑥

- 「●○●○●●●○」のリズムを感じとりながら、音楽を楽しんで聴く。
  - ・ ○は、止まるのかな。
  - ・ ピョンピョン飛んでいる感じだね。
- 拍の流れを感じとって「●○●○●●●○」のリズムを演奏する。（本時6/12）
  - ・ しろくまさんジャンプしてるよ。
  - ・ シャボン玉つぶしてる。
  - ・ そうやってやればいいのか。おもしろい。

##### 「●●●○たたたた●○」のリズムをうちましよう ⑦⑧

- 範唱を聴いて、拍の流れを感じとって歩いたり手拍子を打ったりしながら歌う。
  - ・ はやいね。
- 拍の流れを感じとって、リズムをタンブリンで演奏したり歌ったりすることを楽しむ。
  - ・ 「たたたた」がぐちゃぐちゃになっちゃう。
  - ・ タンブリンってきれいな音だね。

##### ことばをつかって おんがくをつくりましよう ⑨⑩

- 拍の流れを感じとって、言葉でリズム遊びをする。
  - ・ くだもの遊びと同じみたい。
  - ・ おもしろそう。
  - ・ オーバーしちゃったよ。
  - ・ 3つの中に入らないといけないよ。

##### うたにあわせて、からだをうごかしながらうたいましよう ⑪⑫

- 海の情景を思い浮かべながら、3拍子の拍の流れを感じとって歌う。
  - ・ 海って広いなあ。
  - ・ 青くてきれいだよね。
  - ・ 急に波が来てぬれちゃったこともあるよ。
- 少人数のグループに分かれて歌い、互いの演奏を聴きあう。
  - ・ ○○さんじゃうず。広い感じが伝わってきた。
  - ・ 気持ちを込めて歌っている。

○支援 →留意点

- 「じゃんけんぽん」の歌に合わせて手拍子を打ったり音楽に合わせて体を動かしたりして、拍の流れを感じとるようにする。
- リズムを考えずに手拍子をしてしまう子には、じゃんけんに興味をもたせ、リズムに合わせた体の動きになるように助言する。
- 指導用CD「みんなであそぼう」の範唱にあわせて、自然に体を動かしながら楽しく歌うようにする。
- 口の中をよく開けて笑顔で歌うと明るい声になることを範唱して示す。
- 歌うことか、リズム打ちをすることかどちらかを選び、確実にできるように助言する。
- 自由に体を動かしながら、「しろくまのジェンカ」を楽しく聴くように促す。
- 感じたことを伝えあいながら、○のところをどうしたらいいのか考えさせる。
- 教科書の挿絵を拡大して掲示し、白熊の動作と「●○●○●●●○」のリズムが対応していることを伝える。
- 歌とリズム打ちの役割を交替し、どちらも経験できるようにする。
- ○は、カスタネットを打たずに、シャボン玉をつぶすといいいことを伝え、興味をもたせてリズム打ちをさせる。
- 教科書「ぶんぶんぶん」の挿絵の中に、リズムのヒントが隠れていることを伝える。
- 「たたたた」のリズムは、●の半分のリズムであることに気づかせ、早くならないように助言する。
- 音色に気を付けてタンブリンの打ち方を工夫するように助言する。
- 力づくでたたいている児童には、曲の感じを壊さないように、タンブリンはそっとたたきといいいことを教える。
- 「たまご」「めだまやき」の言葉に合わせて手拍子でリズムを打ちそれを模倣するように伝える。
- 食べ物の絵カードを準備し、「たまごリズム」「めだまやきリズム」に分類して掲示する。
- 例「ざぐる・」「えのきだけ・」
- 指導用CD「うみ」の範唱を聴いたり、歌詞を読んだりして、海の情景を想像するように促す。
- 拍の流れを感じ取れない児童には、ゆったりとした3拍子の拍の流れを感じとっている児童を紹介して、真似するように助言する。
- 体をゆったりと横に揺らしたり、腕を動かしたりしながら歌うようにする。
- これまでの学習を思い出し、互いの良かったところについて発表しあって、相互評価するように促す。

5 本時の学習 (6 / 12)

(1) 目標

- ・ 範唱を聴いて歌ったり、「●○●○」のリズムや拍の流れを感じ取って歌ったりして、身体で表現しようと進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・ 範唱や範奏、伴奏などを聴いたり、絵譜を見たりして、拍の流れを感じ取って歌ったりカスタネットを演奏したりしている。 (表現の技能)

(2) 準備

指導用CD、「たん」「うん」のカード、しろくまのジェンカの拡大図、カスタネット

(3) 活動の流れ

○支援 →留意点 □評価

学 習 活 動	教師の支援と評価
<p>1 音楽を聴いて身体で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもしろい。</li> <li>・ 「だるまさんがころんだ」みたい。</li> </ul> <p>2 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「しろくまのジェンカ」だ。</li> <li>・ (あ)い(あ)でうたうだね。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">リズムを手拍子で打ってみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ むずかしい。</li> </ul> <p>3 指導者の範唱に合わせて、手拍子やカスタネットで上記のリズム打ちを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちがえないでできたよ。</li> <li>・ 「うん」のところもたたいたよ。</li> </ul>	<p>→ 音楽を集中して聞かせ、音が止まったら待つようにさせる。</p> <p>○ 集中して参加できない児童Aや児童Bには、周りの子を見て真似をするように助言する。</p> <p>→ 「●○   ●○   ●●   ●○」の手拍子の手本を示し、子どもたちが拍の流れを感じ取ってリズムを打てるように支援する。</p> <p>○ リズムを意識できずにいる児童Aに対し、休符の時には花を開いたように手を広げるようにすると間違えないことを教える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">リズムにあわせて からだをうごかしてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動いてはいけないのかな。</li> <li>・ しろくまさんは、気を付けをしている。</li> <li>・ ジャンプしちゃおう。</li> <li>・ ○○さんのおもしろそう。</li> </ul> <p>4 ○○さんのまねっこをして、リズムに合わせてみんなで踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもしろいね。</li> <li>・ ジャンプたのしい。</li> <li>・ 今度は○○さんのまねっこがいいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ジェンカをきいてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○○さんと同じ踊りが出てきた。</li> <li>・ おどってみたい。</li> <li>・ たのしそう。</li> </ul>	<p>→ ○のところは、どうしたらいいのかを考えさせる。</p> <p>→ 「●○   ●○   ●●   ●○」のリズムを意識しながら身体で表現させる。</p> <p>○ リズムを意識できない児童には、指導者と同じ動きをさせ「うん」のところを意識させる。</p> <p>□ 拍の流れを感じ取って歌ったり、カスタネットを演奏したり、身体表現をしたりすることができたか。 (活動の様子)</p>